



佐渡長谷寺「ぼたんまつり」

佐渡市畑野地区にある長谷寺(ちょうこくじ)の歴史は古く、花の寺として有名で、特にぼたんの名所として知られています。毎年5月に「ぼたんまつり」が開催されており、今年は16、17日が開催日でした。

今年は暖かい日が多かったことから、見ごろは少し過ぎていました。

しかし、訪れた人は大輪の花々を愛でながら、境内で行われた伝統芸能の鬼太鼓や春駒(はりごま)、佐渡民謡なども鑑賞し、とても満足されていました。



鬼太鼓

春駒

6月6日現在、佐渡市野生下で新たに放鳥トキのペア4組から8羽が巣立ち、今季計14羽のヒナが誕生し、巣立ちが確認されました。



トキ情報

平成27年度 佐渡米未来プロジェクト 「品質向上90」の取組み

新潟県・佐渡市・JAが一体となって取り組んでいる、「佐渡米未来プロジェクト品質向上90」を開始して今年で3年目となりました。昨年に引き続き「佐渡米品質向上サポーター」として農家100人を選任し、選任されたみなさんの田んぼに栽培情報と生育情報の看板とのほりを設置し、農業者が情報を共有できる場所づくりに取り組んでいます。また各ほ場での時期別指導会も実施します。

各サポーターのほ場は、それぞれのほ場の生育状況と技術情報に沿った栽培管理を実践し、地域の拠点ほ場として活用します。また、展示ほ場における中干し・水管理・刈取りの指導会と生育巡回を実施し、今年行う指導会は延べで360回行う予定です。昨年の指導会参加人数は約2,800人でしたが、今年は更にそれを上回る予定です。

本年も「佐渡米未来プロジェクト品質向上90」に関係機関一体となって取り組み、生産者と共に「日本安心・安全でおいしい佐渡米づくり」に努めます。



西洋なし倶楽部

JA佐渡の西洋なし倶楽部は部員18名、栽培面積2.5haです。その生産は難しく「幻の洋梨」とも呼ばれていた「ルレクチエ」は、フランス語で「貴婦人」の意味を持ち、その名に負けない芳醇な香りが特徴のフランス原産地の品種です。

佐渡では27年前に、佐渡金井中興地区の青年部が、米と複合栽培でできる農産物を探していたところ、新潟への農業視察中に、「ルレクチエ」に出会い、栽培を開始しました。その後、園地作り等の苦勞を乗り越え、平成10年頃に、「ルレクチエ」が出荷できるようになりました。先日は夏の管理方法について、指導会を実施しました。6月は一番忙しい時期で、病害虫を防除するため、6月中旬までに袋かけ作業を終了する必要があるとのことでした。

部員の加賀哲夫さんは「東京出身で、佐渡に来て17年になります。洋なしを始めたのは7年前、全ての作業をほぼ1人で行っていきます。洋なしのほかには稲作をしており時々漁業のお手伝いもしています。洋なしづくりは年間通して手間がかかります、収穫は10月で、梨を収穫してからまず冷蔵庫に入れて熟させる、それから出荷。それを何度も繰り返してとても大変です。実が傷みやすいため、取扱いは慎重にしております、お歳暮としてお客さんに使ってもらいたい。」とおっしゃっていました。

JAの担当者は「佐渡の「ルレクチエ」は市場で高い評価をいただいております、東京の有名な量販店でも販売されてお歳暮用に最適。これからもさらに品質向上に努めたい。」と話していました。



加賀哲夫さん



袋かけ作業



完熟したルレクチエ



JA 佐渡西洋なし倶楽部 研修会の様子

編集人：佐渡農業協同組合

営農事業部米穀販売課 渡部・買(まい)

beikokuka.hanbai@ja-sado-niigata.or.jp

発行日：平成27年6月